

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】ユニット1(2階)

事業所番号	2792000115		
法人名	医療法人真芳会		
事業所名	いきいきグループホーム杉本		
所在地	〒558-0022 大阪市澄江市区杉本1丁目6番16号		
自己評価作成日	平成29年12月14日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に医療関係者と連携が取れる体制を整えることで、慢性疾患や医療依存の高い利用者様でも安心して暮らして頂けるよう環境を整備しています。そのために必要な医学的知識に関する研修を随時行っており、入居される方だけではなく、その家族様にも安心していただけるよう取り組んでいます。買い物や散歩、地域の催しに積極的に参加することで利用者様に四季折々の空気を感じて頂き、また地域の方々との繋がりを維持できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は医療法人真芳会が運営するグループホームの1つである。当会は他にグループホーム4か所、小規模多機能ホーム2か所。サービス付き高齢者住宅その他の介護施設などがあり、主に大阪市南部で高齢者福祉事業を展開している。当事業所は「利用者の人権尊重、福祉・医療の両面から支える、地域と協力してよりよいホームを作る」の理念を標榜し、さらに利用者の残存能力を活かし、頭と体を使って心身の更生を図るべく活動に力を注いでいる。医療連携体制が整っており、健康管理が行き届いている。事業所での生活リハビリの他、頭も使いながら体を動かすことに多くの時間をとっている。その為、利用者のADLはあまり低下していない。介護の負担はむしろ入居時より軽くなっている。管理者の方針指示により職員は気持ちを一つにして目標の実現に励んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関および各フロア事務所内に当施設の理念を掲示し、全従業員が常に理念を意識して業務を行うように努めている。	独自の理念を「利用者の人権尊重、家族的な安らかな生活、福祉・医療の両面で支える、地域と協力してより良いホーム作りを目指す」を掲げ、ホーム入り口、各ユニットに掲示し職員一同で実現を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段の散歩や買い物に加え、地域で行われているふれあい喫茶や学校でのイベント、夏祭りなどに参加し、地域の方々との交流を図っている。	町会長の紹介で参加が始まったふれあい喫茶や地域の祭り、老人会行事等が恒例になり毎年案内を貰うようになり、近くの大学祭にも招かれ、中学の吹奏楽部の慰問、カラオケ指導員達のボランティア訪問など、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員には随時、認知症サポーター研修や認知症介護実践者研修などを受講させることにより、自分自身の認知症ケアに関する知識を深めるとともに、地域の方々からの相談にいつでも応じられるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の近況を報告し、出席された方から評価や意見をいただき、サービスの改善・向上に努めている。	ほぼ2カ月毎に開催。利用者、家族、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員と事業所幹部の出席で双方向的な会議が行われている。頂いた有益な意見、提案を運営に反映させている。事業所として地域に貢献する旨提案している。現在資源ごみの回収に協力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所生活支援担当の職員の方とは毎月の定期的な連絡のほかにも、何かあれば都度報告することを通じて、協力関係を築くことに努めている。	区役所生活支援課とは毎月定期的に事業所の状況を報告し指導助言を貰っている。その他折りにふれ訪問或は電話で連絡を取り協力関係の構築に努めている。区役所職員も時々来訪され情報交換など行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には研修などを通じて随時身体拘束についての知識の習得に努めており、やむを得ない場合を除いて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害については毎日のように話し指導をしており、拘束しないケアに努めている。玄関ドアは安全確保のため施錠しているが、それ以外は自由にどのフロアにも行き来できる。身体拘束の必要な場面に遭遇した時は直ぐに委員会を作って検討することになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待に関する研修をおこなうことを通じて、職員全体で、何が虐待に当たるのか、日々のケアにおいて常に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護については、成年後見制度など利用を必要とされる方に対してパンフレットなどをもとに説明し、関係者との話し合いが持てるよう働きかけを行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については利用者・そのご家族に対し十分に説明させていただき、納得していただいたうえでサインを頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者またはご家族の目につく場所に意見箱を設置し、意見や要望が反映できるよう本部に内容を伝えたり会議を開くなどして職員にその内容を周知徹底するよう努めている。	利用者からは毎日の生活の中で話し合い、希望を把握している。家族は運営推進会議や事業所訪問時に話し合い、意見希望を聴くよう努めているが来られない家族もある。時々電話連絡で利用者の現況をお知らせするが、意見や要望を聴き取るには十分ではない。	家族が常に来訪されるとは限らない。ゆっくり話もできない人もある。利用者の普段の生活など書きとめ毎月送ってあげると家族との連携も深まり、家族にとっても安心であろう。小さな瓦版からでも実行されることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案についてはその都度聞き、必要ならばフロア会議や全体会議で議題として取り上げることにより、施設運営に反映できるように努めている。	不定期にフロア会議を開き話し合っている。管理者は随時職員と個別に話し合い、希望提案があれば職員から管理者に話すことも随時行われている。全体会議は休会状態である。	職員と管理者との関係は時々開くフロア会議、個別面談で風通しの良い雰囲気ではあるが、定期的に全員或はフロアで集まって話し合う会議を開催されることが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準と労働意欲の相関を意識し、常に職員がやりがいや楽しみをもって働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケア内容とその力量を把握し、法人内外の研修受講の機会を設け、スキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の置かれている状況を踏まえ、不安や要望に耳を傾けることで一刻も早く施設での生活に慣れていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来所された際には、意見や疑問などをうかがい、その内容をサービスに反映させていくことで、より安心して預けていただけるよう、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所の際には事前に本人様及びご家族様に対して面談を行いその場でどのような要望があるのか、どのようなサービスが必要なのかを話し合い、様々なサービス利用も含めた支援を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側の都合による一方的な支援ではなく、本人様の残存能力を生かし、ともに生活を築き上げていくような関係になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には何かあればその都度連絡をさせていただいているとともに、本人様とご家族様との関係が途切れないように、日々の様子を知らせていただいている。また施設行事の際には事前にご家族様にも連絡し、参加していただけるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や馴染みの方々が気軽に立ち寄って頂けるような環境づくりに努めている。施設行事の際にはご家族様等にも参加していただき、関係が途切れないよう努めている。	利用者の友人、知己が時々訪ねてくれる。来訪者に誕生日会や施設行事に招待したりする。地域のふれあいサロンに参加し馴染みの人との出会いや、新しい馴染みの関係ができることも期待できる。散歩の途中に知り合いに会いお喋りすることも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームは共同生活の場であるため、利用者同士が常に関わり合い、様々な場面でお互いに助け合う生活ができるようなしぐさに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、本人様やご家族とのつながりは継続し、必要に応じて相談や支援を受けていただけるような体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に個別対応の支援を行っており、本人様がどのような生活をされてきたのか、どのように生活していきたいのか、という思いを尊重した支援が行えるように努めている。	利用者と職員は毎日の生活の中で常に話し合い意向の把握に努めている。対話できない利用者はなく、また聞き取った生活歴も参考にして、本人の希望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や生活環境に加え、ケア内容や本人様の要望等については、フロア会議などで話し合い、職員全体で状況の把握・共有化に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様それぞれの生活リズムを把握し、何か気づいた点があればその情報を職員全員で共有し、同じ方向で支援をするよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本人に加え、そのご家族様や関係者と話し合い、現状のニーズに適した介護計画の作成に努めている。	3か月ごとに計画を見直している。介護職員、計画作成担当者、管理者で看護師の管理記録も参考にして新しい現状に即した計画を作成し、本人、家族に説明する。家族には来訪時、又は郵送して承認を貰う。症状に変化がなければ継続する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアをしていく上で気づいた点などは都度、個人記録に記入することで職員間での共有を図り、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況に応じて、都度話し合いの場を持ち、何が一番良いのかを見極めつつ、それを行うための柔軟な対応や支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な運営推進会議の開催により、地域との連携もとれてきており、地域に催しの協力や傘下に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人やご家族様の希望に配慮し、それに沿うような適切な医療を受けられる体制を整えている。	殆どの利用者は、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意し、月2回の往診を受けている。従来のかかりつけ医継続の場合は家族に受診同伴を依頼している。急な発病時は了解を得て協力医療機関の往診を受ける。歯科は全員毎週協力歯科医の往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態について気になる点や気づいた点は都度看護師に報告することで医療との連携を図り、適切な指示を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者がいつ入退院となっても大丈夫なように、日ごろから医療関係者との連携を図り、急変時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様やご家族と話し合いの場を持ち、十分納得していただいたうえで主治医や看護職とも協議し、都度最善の対応ができるように体制を整えており、看取りについても適切な対応ができるようチームで取り組んでいる。	入居時に重度化対応指針を示し説明する。かかりつけ医が重度化と判断した時、改めて家族と話し合い、対応を決める。希望があれば事業所で適切に看取り対応する。経験もあり、主治医や看護職と共に最善の対応可能な体制はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えた必要最低限の医学的知識については法人内や事業所内で定期的に研修を行っており、実際に事故や急変の際にも迅速な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生の際の対応マニュアルは各事業所に備え付けており、緊急時の連絡・避難体制の周知を徹底している。	年2回避難訓練を実施、消防署の指導も受けている。緊急時の連絡網により夜間も近隣在住の職員の出勤の用意もできている。近隣の人たちの応援体制は運営推進会議を通じて依頼している。備蓄品の用意がある。水害が予想される場合は、利用者と共に上層階へ移動する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には常に利用者それぞれの人格に配慮した声掛けを心掛けるように促し、定期的に接遇の研修を行い、対応強化に努めている。	職員の利用者に接する態度は、親しみを込めた声掛けと態度で接している。職員と利用者の家族的な関係がうかがえる。事業所では、言葉かけ、接遇研修を定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のかかわりの中で、本人の思いや訴えを傾聴しながら、その思いを実現していただくために、自己決定できるような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムを把握し、ご自身のペースで生活していただけるよう、柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って、できる限りご自身に衣類を選んで着用していただけるよう声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の盛り付けや配下膳をしていただき、自宅と同じような環境づくりに努めている。	食材業者から冷凍食品がメニュー付きで納入される。ご飯と汁ものは事業所で作り、他は温めるなどで殆ど出来上がったものを盛り付けて提供している。可能な利用者は手伝っている。月1回は買い出しから調理まで皆で好みのものを作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や栄養バランス等、定期的に管理栄養士と個々の栄養状態や摂取量が適切かどうか等相談し、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っており、自分で磨ききれない部分は職員が介助する等、口腔内の清潔保持に努めている。また、週一度歯科衛生士による口腔ケアを実施し、口腔内の健康維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを介護記録等で把握することで、適切なトイレ誘導を実施し、可能な限り排泄の失敗を防ぐとともに、トイレでの排泄をしていただけるよう支援している。	個々の排泄リズムを把握し、早目誘導でトイレでの自立排泄を支援している。夜間も同様にトイレでの自立排泄を促している。おむつ使用者は1人、リハビリパンツ使用者が4人後は布パンツである。リハビリパンツ使用者が布パンツに改善されるケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事と十分な水分摂取、日々の運動を取り入れることで便秘予防に取り組んでいる。また、薬剤を服用せざるを得ない場合には主治医や看護職に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、入浴日は決まっているが、本人の希望や体調などにより、いつでも入浴できるような対応をしている。	週2~3回入浴を支援している。拒否する場合、時間や日を変えて柔軟に対応している。入浴剤等を入れて変化をつけている。重症の利用者には2人介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人にとって最も馴染みのある生活習慣を把握し、一番過ごしやすい生活リズムで過ごして頂けるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様が服用されている薬の種類・目的、副作用を理解したうえで服薬支援を行っており、日々の状態の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴やニーズに即した支援を行うよう心掛けており、一人一人が自己実現に向けた生活を送って頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物に行くことを心掛けており、祭りなどの地域の催しや、花見などの季節の催しに積極的に参加できるよう支援している。	毎日少しでも外気に触れるよう支援している。買い物と一緒にいたり、地域行事の祭りやふれあい喫茶、大学祭見学や季節の好い時は花見や紅葉狩りなど、近隣の人たちに挨拶しながら外出をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様それぞれの状況を把握したうえで、必要に応じて対応することを心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様それぞれの希望に即して、適切な対応に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の各居室や共用フロアには季節に応じた飾りつけをするなど、利用者様にとって心地よい環境づくりに努めている。	リビング兼食堂はゆったりし明るい、体操、書道、貼り絵などの他毎日身体を動かす事をここでやっている。エレベーターホールに職員と利用者のコラボの貼り絵があり季節を感じる。ホームの芝生広場にベンチが置かれ、好季節にはここで日光浴を楽しむ。トイレ、浴室は清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者様一人一人が自由に過ごして頂けるような場所であり得るように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人様にとって馴染みのある物を置き、快適に過ごして頂けるよう配慮している。	居室は電動ベッド、カーテン、ナースコールが備え付けで、他はそれぞれ使い慣れた家具調度品を持ち込み各自が使いやすく、住みやすく設えられている。従来からの生活の継続性を感じられる。広さもゆとりがあり、どの部屋でも長いベランダに出られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の環境については、安全面に常に気を配り、自立した生活が送れるよう工夫している。		